

最幸魂になれる

命の絆の法則

その1



前書き。

- ・ここに載せた幸せになられた方々の実例を紹介していきますが、魂はたったの二つが四つ、四つから十六というように魂が増えていますが、人間界ではたったの二つだけの魂で家系が出来ていることを知ってもらいたい。
- ・人は嫌った人と同じ魂を優しく引き寄せて、怨念返しの怨返しをしていることも理解してもらいたい。
- ・親切とは(親が切る)(親を切る)と言うように、嫁がせた側の親は、婿側の立場を守ることを知ってもらいたい。
- ・嫁がせた側の親は婿側の家への気遣いをすることで、娘や孫たちが幸せになれることを知ってもらいたい。
- ・嫁いだ娘との携帯でのやり取りをするよりも、婿へ必要な連絡ややり取りをすることが、娘への思いやり。
- ・長男以外の分家や嫁いだ娘が祀り事に手を出したり、墓参りをしたりしてはいけない。

人は神との約束をして生まれ変わってきましたが、その約束を思い出す前に、(親孝行者と親不孝者)(気に入ると気に入らない)(出来のいいと出来が悪い)(善人と悪人)などを区別ではなく差別で物事を判断することを教えられてしまい、魂の原理である命の絆の法則を欺いているにすぎない。

No.1、「クソ婆帰れ！」と言えてからお互いが良くなった。

長男の家に嫁いだ娘さんは、「クソ婆！ 二度と電話してくるな！ 二度と来るな！」と母親からの電話を泣きながら切ってから、心の中で、「これで良い！」と呟いた。

いつもなら愚痴を聞いて上げることにより、少しでも母親の慰めになると思っていたが、この日は違った。

何時も掛かってくる内容は、跡を継いでいる兄夫婦の愚痴であり、母が近くを通ったからと立ち寄る時は、必ずその愚痴の聞き役だったが、命の絆の法則を理解した娘さんは、一大決心して母に言うことが出来た。

それから数ヶ月後、いままで兄嫁と折り合いが悪かったが娘さんは仲が良くなった。

そして母親も娘さんの誠の心が分かり、兄嫁と母親は本当の親子になった。

何故仲が良くなったかと言えば、母親を幸せにしたいならば、兄長男に感謝すること、父親を幸せにしたいならば兄嫁に感謝すれば良い。

嫁いだ娘が直接、親孝行すれば、実家を継いだ長男夫婦と親の折り合いを悪くするだけだと分かり、誠の親孝行者は無言になることを、歯を食いしばりながら実践したからである。

前世では娘は嫁であり、嫁は娘であったことを、親の心を確かめるために、親自身がみずから選んだ悟りの道だからである。

娘さんは長年偏頭痛や肩こりに悩まされていたが、その日を境に治った。

実家を継いだ兄夫婦を無視して親孝行は偽善の罪になり、優しさとは〔人が憂い〕、偽りとは〔人の為に〕、償いとは〔人が賞を取る〕、親切とは〔親を切る〕〔親が切る〕〔親しい人を切る〕と書く。

出しゃばって親孝行をすれば、親孝行者として世間は見るが、魂と生命は素直だから身体に影響を及ぼすので、すべての体験に感謝だね！

No.2、母親のお陰と思っていたが……………。

「分かりました！」と言って帰られた一児の母は、「いままで私のお陰であなたの精神的な悩みを助けて上げていたのよ。私に感謝しなさい！」と母親に言われ続けていた。

だが実際には娘の家に母親が同居してから、不幸が始まったことに気づいた。

母親が同居するまでは、夫と娘と三人家族で幸せに暮らし

ていたが、母親は実家を継いだ弟長男の嫁と折り合いが悪くなったので、娘の家に転がり込んで来てから、夫が酒を飲んで帰りが遅くなり、喧嘩が絶えなかった。

そればかりか高校に入った娘は、非行グループに入り、シンナーを吸ったり、帰ってこない日々が続いたりして、悩みが絶えないので、母親がいてくれたから精神的に助かったと信じ込んでいた。

しかし逆であった意味が分かり、実家を継いでいる弟夫婦に詫び、泣きながら母親を追い出した。

母親は、「息子も娘も薄情者で緑な死に方はしない！」と捨て台詞を残し、少しの間、自分の姉妹の処に身を寄せていたが、アパートに越して独りで住み始めた。

それから間もなく、非行に走った娘は家に戻り、昔のように明るくなったばかりか、主人も酒を飲んで来ることがなくなり、親子三人幸せに暮らすようになった。

一方、母親も少しずつだが理解し始め、息子の嫁と折り合いが良くなり、同居とまではいかないが、頻繁に行き来するようになった。

母親は幼い頃、兄が亡くなったので婿養子を取った長女で、ワガママだった自分の母が亡くなってから、自分も同じよう

になってしまった。

誰が悪いのではなく、母親の兄がなぜ幼く亡くなったかを知ることも必要だと思う。

亡くなったから跡を継げば、親が作った罪を子供が受け継ぎ、孫が現すようになってしまう。

また、先祖供養を真剣にすればするほど、親の因果が子に報いとして不幸を背負ってしまう。

No.3、一番嫌いな人が前世の自分の姿。(図式入り)

「この子をこの窓から落とせば……………」と母長女は呟いた。生まれて間もない息子を抱えていつ殺そうかと思った。

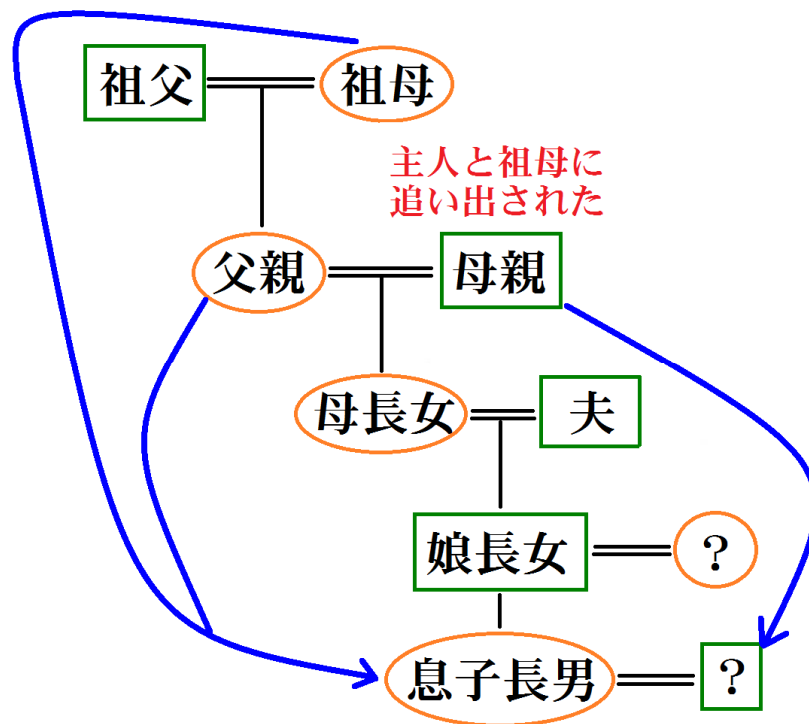
母長女は息子が成長するにつれて気が重くなり、ノイローゼ気味になり、病院の神経科に通院していた。

この母長女の父親と祖母は、母長女がまだ幼い頃、母親を、「気に入らないから」と追い出していた。

幼い頃から父親と祖母を憎んで、高校を卒業と同時に家を飛び出し自立し、同じ会社の男性と結婚し、始めに娘長女が授かり、二番目に息子長男が授かってから、精神分裂症になった。

優しい夫はそんな妻をいたわり家族を守っていた。

命の絆の法則を説き、人間は前世の人生を見るように、みずからが仕組んで生まれ変わってきた。



一番嫌いな人がみずからの姿であり、その人と再会してみずからを許し、みずからを愛するために生まれてきた。

憎しみは憎しみの子を産み、悲しみは悲しみの子を育て、そのお返しでみずからが子供に憎まれ同じ事を繰り返す。

息子さんが大きくなり結婚した相手は、追い出された実の母親の魂と生命が戻ってくるのだから、それまで大切に育ててあげれば〔母親の魂と命の里帰り〕となり幸せになれる。

このまま憎しみを捨てずに育てれば、息子の嫁をも憎み、

実の母親が追い出されたように、また嫁を捨てなければならなくなり、捨てればいくら母親を偲んでも罪は消えず、息子さんが同じように子供が授かれれば離婚するようになり、結局は同じ事の繰り返しになってしまう。

すやすやと添い寝している息子を抱きかかえていた奥さんは、目にいっぱい涙を浮かべていた。

涙は心を洗い清め、子供への慈しみ育てる決心がつき、目に光が輝き始めた。

我が子は我が親なり、我が親は我が子なり。

No.4、保険のいろいろな事例。

命の絆の法則を理解した家と反対の家。

ある母親は息子夫婦と暮らしていたが、嫁いだ娘夫婦と孫までも保険を掛けていた。

それは間違いだと分かり、娘夫婦と孫の保険をすべて解約した。

その後どう変化したかと尋ねたら、まず娘婿の長年の腰痛が治り、孫のアトピーが治り、母親自身の腰痛も治ってきた。

やはり、同じ事例で、嫁いだ娘夫婦と孫に保険を掛けてい

た母親は、娘夫婦と孫の保険をすべて解約した。

その後、娘夫婦の息子二男は、三十過ぎても結婚の縁がなかったが、解約して間もなく結婚することが出来た。

またまた同じ事例の話で、やはり母親が娘夫婦と孫にも平等に保険を掛けていたが、すべて解約してから、同居していた息子のギャンブルが直り、息子の嫁とも折り合いが良くなり、娘の息子長男は三十過ぎで結婚の縁がなかったが、結婚の縁が出来て喜んでいる。

反対に娘夫婦と孫までも可愛さのあまり、出しゃばって保険を掛けていた母親は、同居していた息子夫婦は、離婚して嫁は実家に戻り、息子はアパートに引っ越してしまった。

それでも気づかず娘夫婦のために保険と家のローンを払い続けていたが、家のローンをすべて払い納めた直後に、娘の家が全焼してしまった。

人は親不孝者だけを攻めるから、つぎから次へと同じ事を繰り返す。

No.5、胃癌が治った。

父が入院したその病名は胃癌である。

娘たち姉妹は母を助けるために、交代で看病をしていたが、命の絆の法則の意味が分かり、親と折り合いが悪く実家を出ていた弟夫婦とだけ行き来し始めた。

母親はカンカンに怒ったが、理解した娘たちは看病に行くことをいっさいしなかった。

そのうちに弟夫婦が交代で看病に行くようになった。

始めは母も嫁を見ると怒れたが、薄情な娘たちよりましだと思い、嫁を頼るようになってきた頃から胃癌が治った。

これは父親にとって長男の嫁は、〔前世の母〕であり、〔前世の父と娘〕であり、母親と長男の嫁は前世では、〔前世の母と娘〕であった。

親の心のあり方を確かめるために、神の世界で誓い、入れ替えと組み替えをし、人間界に生まれ変わるときに、仕組んで生まれてきたことが分かったからである。

現世の娘は、〔前世では嫁〕であり、娘を育ててもらっている代わりに、前世の嫁を娘として育てて、「娘は先祖の里に里帰りさせて、お帰りください！」「嫁は先祖の魂の里帰りとして出迎え、お帰りなさい！」と快く出迎え結魂する。

娘が入れば、嫁は入ることが出来ず、嫁が入れば、娘は入ってはいけない。

これが親切の意味だから、親が引き寄せてはいけない子供もいるという訳。

娘は婿側の立場と順序を守ることを教えることが、親としての役目だと思う。

No.6、肺癌の疑いがやっぱり。(図式入り)

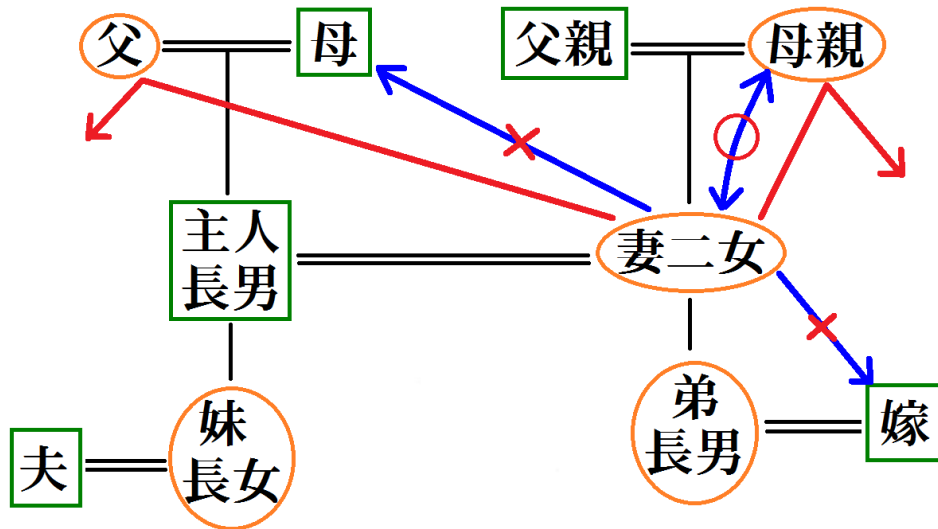
長男の家に嫁いだ妻二女だが、主人の父と折り合いが悪いので、夫婦でアパート暮らしをしていた。

妻二女側の実家も同じように弟夫婦もアパート暮らしをしている家系の話で、妻二女側の母親が肺癌の疑いがあるので、入院して再検査したところ胃癌だと診断された。

妻二女は命の絆の法則を理解し主人も分かり、主人は実家の両親に訴えた。

なぜなら、主人の父は嫁より娘長女夫婦と同居したいと望んでいたからです。

妻二女として母親の病気を治すには、どのように行動をすればいいのか、正す順番を間違っただけで行動すれば、治る癌も治らなくなることも理解した。



図式を見てもらうとよく分かるはずで、妻二女は母親への想いが強すぎたために、主人側の父の怒りを買ったことになり、母と弟嫁を嫌っているために、母の細胞を破壊させてしまったことになるから、まず一番始めに妻二女が母親の看病や病院からの連絡人と病院見舞いを止め、つぎに妻二女は主人側の母への思いやりを示し、その後に弟嫁に、「あなたの命に出会えてありがとう」と思う意識を高めること。

それらを順番通り実行出来たのを見届けたかのように、肺癌が治った。

「病は悟りの始めなり」であり、魂と生命は一つから二つになり、二つから四つになっただけで、神の世界では一つの魂と生命が、人間界では二つに分かれ、一つの魂と生命がも

う一つの魂の生命と出会い、お互いが前世の姿と人生を悟るために再会したのです。

一番嫌いな人が前世の自分の姿と人生だと気づくために、神の世界から舞い降りてきたのです。

「人を呪えば穴二つ」と言われるように、二つとは自分と相手であり、自分とは同じ魂と生命も含まれ、相手とは自分の身内だけではなく、関係がないと言われる人たちまで、病の波紋が広がっていきますので、神の導きに感謝！

No.7、息子のアトピー皮膚炎が治った。(図式入り)

近くに嫁いだ姉長女は娘を連れて、毎日のように実家に行っては親と過ごしていた。

弟長男夫婦は同居せずアパート暮らしを選んだので、これ幸いと姉長女は、娘を連れて親孝行していた。

姉長女にも待望の息子が産まれたが、アトピー皮膚炎がひどく病院通い。

姉長女は一年がかりで命の絆の法則を理解ができ、いままで母親に娘を預けて息子を病院に連れて行っていたが、母親に預けるのをやめ、実家を出てアパートに住んでいる弟夫婦とだけ行き来した。

である。

長女婿は母の生命と同魂であり、長女が母親を慕えば慕うほど、主人との心の溝が深まり夫婦喧嘩になる。

長女は母親の恩を主人と長男夫婦に返すことが誠の恩返しになる。

No.8、サラ金地獄から光が見え始めたが…。

二人息子の父は、怒りと嘆きと悲しみに悩んでいたのは、「自分では何も悪いことしていないのに……」

それは息子長男夫婦には子供が出来ないばかりか、息子二男夫婦はギャンブルや浪費癖で一千万円以上のサラ金地獄。

何故、親孝行を真剣にしたのに……。

「あなたは親孝行者に見えるが二男夫婦だから、親が長男夫婦を憎んでいて、あなたが本家の跡を継いだことは、偽善の罪となり、命の絆の法則を欺いたために起きているのだから、兄夫婦に詫びて感謝しなさい」

それから三年の月日が経ち、命の絆の法則を理解でき、兄夫婦に詫びることが出来たことで、息子二男夫婦のギャンブルと浪費が直った。

だが自分たち夫婦が家を出て、兄夫婦を実家に返すことは

出来ないと言う。

命の絆の法則から見れば、父二男にとって息子長男夫婦は、兄夫婦の魂の里帰りであり、兄夫婦を無視して我が子に親孝行を望んでいても幸せになれない。

親が我が子の孫に魂と生命が戻ってくるから、偽善の罪を犯した結果、孫が誕生しないのです。

父二男が実家を継ぐと言うことは、兄夫婦の物を奪ったことになり、奪った物は奪われるという原理原則がある。

これは理解できたからサラ金地獄の二男夫婦が立ち直ったのだが、孫が誕生するためには、いま住んでいる家を出なければだめだと言うことが理解できても実行できないと言う。

No.9、シングルマザーの登校拒否といじめと行く末。

母長女は夫と離婚して実家の近くのアパートに引っ越し、実家の鍵を持っていて、毎日のように実家に行って母親を助けるために、家事の手伝いや洗濯や買い物や食事の仕度をしていたが、親孝行者の母長女の息子は登校拒否といじめにあっていて母親と母長女は悩んでいた。

母長女は命の絆の法則を理解し、両親と一緒に住んでいた弟夫婦を追い出しことが、息子をみずからの手で苦しめてい

たことが分かったが、なかなか実行が出来なかったがある日を境に選んだ。

それは恐喝事件が起きたからである。

いままではいじめられていた息子が今度は恐喝していたからである。

母長女は一切実家に行かず、実家を出た弟夫婦と行き来するようになり、仲良くなってから息子が変わり明るくなった。

我が子は我が兄弟の預かり物であり、前世で嫁だった子を娘として授かり、前世で娘であった子を嫁として出迎えることが結魂であり、娘は先祖の里に里帰りさせ、嫁は先祖の魂の里帰りをさせて、「お帰りください！」と「お帰りなさい！」を明確にすることが、現世の娘を幸せにする元である。

兄弟姉妹は親に受けた恩を長男夫婦に返すことが誠の恩返しであり、長男でも妻が長女なら長女婿の立場を守り、二女なら二女婿の立場を守り、二男でも妻が長女なら長女婿の立場を守ることが立場と順序です。

だから長男だからと言って権威を主張したり、誇張したりしてはいけない。

長男が弟や姉妹を権威で接すれば、我が子の魂と生命は兄弟姉妹の魂と生命を授かっているのだから、今度は我が子た

ちが、その仕返しに兄弟喧嘩や遺産相続争いをしてしまう。

No.10、父親と二女婿の脳梗塞が治った。

姉二女と弟二男嫁の二人が母親を助けるために、交代で父親の看病をしていたが、一進一退でなかなか良くならなかった。

命の絆の法則を聞いていても実行できなかったが、ある日を境に変わった。

姉二女の夫が父親と同じように脳梗塞になって、ようやく姉二女と弟二男嫁は、実家から追い出した弟長男夫婦と行き来していないからだと理解した。

弟長男は結婚してから親と折り合いが悪く、親子喧嘩の明け暮れで、父親から勘当の身であった。

しかし、姉二女と弟二男嫁は現在の親に孝行するのではなく、前世の親である弟長男夫婦とだけ行き来をするを選んだ。

そして父親にとっても長男の嫁は〔前世の母〕だということも気づき、病んでいる父親と看病に明け暮れしている母親に命の絆の法則の話をした。

両親も一ヶ月、二ヶ月、三ヶ月と月日を重ねる内に、魂の

原理を理解し、母親は息子夫婦と行き来するようになり、実家に同居してから、父親と姉二女婿の脳梗塞が治ってきた。

我が兄弟は我が子なり 我が子は我が兄弟なり、我が子は我が親なり 我が親は我が子なり、兄弟の魂と生命が今度は我が子に授かり、憎しみが憎しみの子供として育て、立場と順序を無視すれば、今度は我が子たちに立場と順序を無視して親孝行をさせてしまい、二女や二男夫婦に勘当するような子供を育ててしまうが、大部分の人たちは、すべて子供たちが悪く、親は何も罪がないと思うから同じことを繰り返してしまう。

No.11、姉の息子の登校拒否が直った。

姉長女は母親と喧嘩が絶えない弟長男嫁を憎んでいたが別居したので、これ幸いと毎日のように姉長女は子供たちを連れて実家に行っていたが、その姉長女の息子が登校拒否になった。

何故、こんなに親孝行をしているのに……………。

色々な人に相談したり、お祓いを受けたりカウンセリングを受けたりしたが、登校拒否は直らなかった。

しかし意味が分かり、次第に母親と姉長女が弟長男嫁への

憎しみが消えてきて、間もなく登校拒否が直った。

長女と長男嫁は同じ魂であり、長男と長女婿も同じ魂であり、長女夫婦の子供は長男夫婦の魂と生命を大切に預かり育てさせてもらっている。

長男夫婦の子供は長女夫婦の魂と生命を預かり育てさせてもらい、お互いが憎むこと怨むこと嫌うことなく、兄弟仲良く立場と順序を守りながら育てているのです。

それは育ててもらっているから、育てさせてもらえという仕組みになり恩返しになる。

長女が長男の嫁を憎み怨めば、長男嫁の子供を我が子として預かっているから、憎しみと怨みが跳ね返り、我が子が憎まれる。

我が娘は我が長男嫁であり、我が長男嫁は我が娘である。

我が子は我が子に非ずであり、親や兄弟姉妹であれ、他人であれ、誰も憎むこと怨むこと嫌うことが出来ないのです。

この場合、親に受けた恩を長男夫婦に返すことが誠の恩返しになり、親に恩を返すと思う心が、母親と長男嫁との間に割り込みになり、結局我が子はその罪を背負い登校拒否になってしまったのです。

姉長女が母親との間を遠ざけることによって、母親を幸せ

祖母が弟長男嫁を憎んでいたことを誰にも言わなかったが、孫息子夫婦が気づかせてくれていたのに、母長女も同じことを繰り返して、息子だけでなく嫁まで憎んだために、父親が脳梗塞になったと悟ってから、息子と嫁への憎しみが消えた。

姉たちも父親の病を治すために、弟夫婦とだけ行き来をするようになり、息子夫婦が父親の病室に行くようになってから脳梗塞が治った病は悟りの始めなりの話。

No.13、十年間の病の元は…。

十年来の病の元は、ただ一人縁が無かった兄嫁がお見舞いに来てくれてから治った。

主人二男は家を増築して間もなく、原因が分からず倒れ意識不明になった。

それから十年、病は治らずじまいなので、増築したのが原因と言われ、有りとあらゆるご祈祷をしてもらったが一向に治らない。

主人二男と兄嫁は、〔前世の母と息子〕、二男嫁と兄は、〔前世の父と娘〕。

一番嫌いな人が前世の姿と人生であり、その人と出会い、

すべてを許し、すべてを愛するために、神と誓って生まれてきたから、前世で誓った再会同士である。

前世では母と息子、父と娘だった体験を人間界に生まれ変わったときに、前世のことを忘れていたが再会できたことをお互いが感謝し喜び合うことを誓って生まれてきた。

しかし人間界に生命と魂を授かった途端に、親に孝行を教育で教え込まれてしまっているのだから、思い出すことをやめてしまった。

親にとって誕生とは、

〔大切な人が生まれてくる〕〔思い出したい人が生まれてくる〕〔忘れてはいけない人が生まれてくる〕〔恩を返したい人が生まれてくる〕〔縁を結びたい人が生まれてくる〕〔感謝すべき人が生まれてくる〕。

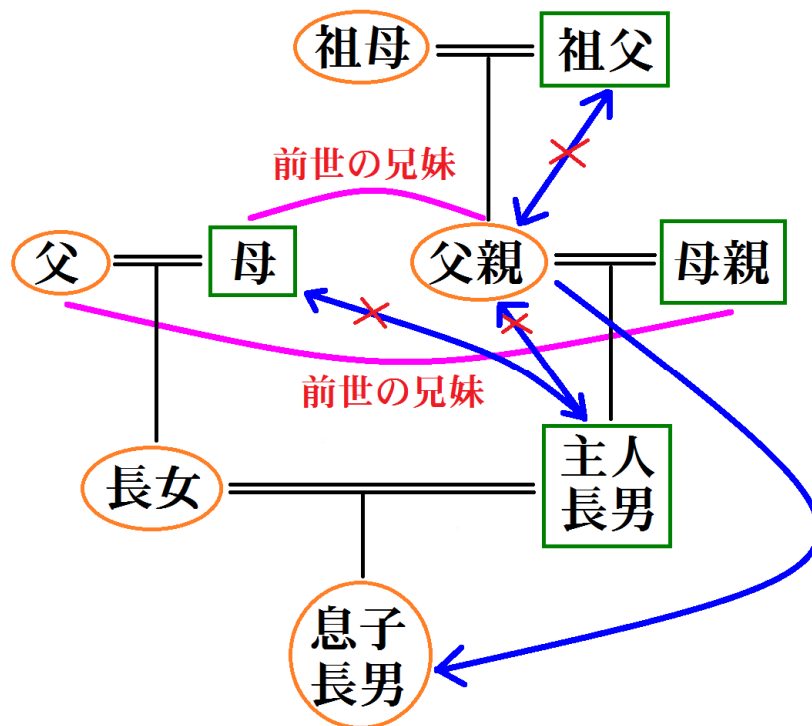
親自身、命の絆の法則を理解しないから、前世の親子が再会しても、〔親孝行者と親不孝者〕〔好きと嫌い〕〔気に入ると気に入らない〕とに、区別ではなく差別してしまったから、病んで再会を待ち望んでしまうのである。

病まないで前世の親子の縁が結ばれないと、魂と生命が訴えかけていて、病んでいままでの罪を詫びているのである。

No.14、霊の原因は…。(図式入り)

マンションに霊が出るというのでお伺いし、玄関に入るなり異様な雰囲気漂っていて、若い奥さんは、「後ろから押し倒されたり、足を蹴飛ばされたり、頭の後部を叩かれたりと、さんざんな目に遭っている」と言われたので、お祓いを終えてから、「おじいさんの霊がいる」と言ったところ、「分かります」とのこと。

奥さんは、「主人は長男でおじいさんに可愛がられていたが、父親と折り合いが悪く大学を出たまま、実家に帰らず就職して結婚しても帰る気がなく、マンションを買い夫婦で住んでいる」とのこと。



家系図を書いて説明したところ、奥さんは、「私は長男の嫁だから、主人の父と同じ魂と生命で、主人はおじいさんの魂と生命を受け継いでいるので、おじいさんが孫を守るために、孫嫁である私にちょっかいをかけている？」

「そうです！」

「結婚してから主人が変わったのも、分かるような気がします。結婚前は優しかったのですが、結婚してから人が変わったようになり、私の実家の母と折り合いが悪くなり、気まぐずい思いをしていたこともうなずけます」

「あなたたちは長男と長女ですから、あなたの母親と主人の父親は、〔同じ性格の前世の兄妹〕、あなたの父親と主人の母親は、〔同じ性格の前世の兄妹〕だから、入れ替え組み替えして、前世の親の人生を知るために、あなたたちも魂が結ばれる結魂なのですから、あなたが嫁いでいても心が嫁いでいないから、主人の祖父が気づかせるために、ちょっかいを掛けているのですから、嫁ぐ意識を持つことです」

「よく分かります」と言われ、奥さんは実家の鍵を親に返し、マンションの鍵も返してもらい、母と携帯でのやり取りをしないと誓い実行し、反対に主人の実家に何度も電話をかけるようにした。

その後、霊は出なくなり、五年も出来なかったが、可愛い男の子が誕生した。

それは主人が嫌っていた父親の魂の分け霊だと悟った主人は、実家に何度も帰るようになった。

No.15、除霊は除霊に非ず。(図式入り)

ご主人が悪霊に取り憑かれるので、宗教家に年に何度も除霊をしてもらっていたが、除霊されないの由来で欲しいと言われ、マンションに行ってみて、玄関の中に入った途端に、左腕がしびれてくる。

「おかしい」と思い、お祓いを始めて終わってから、老人のようなので、家系を聞いてみて納得。

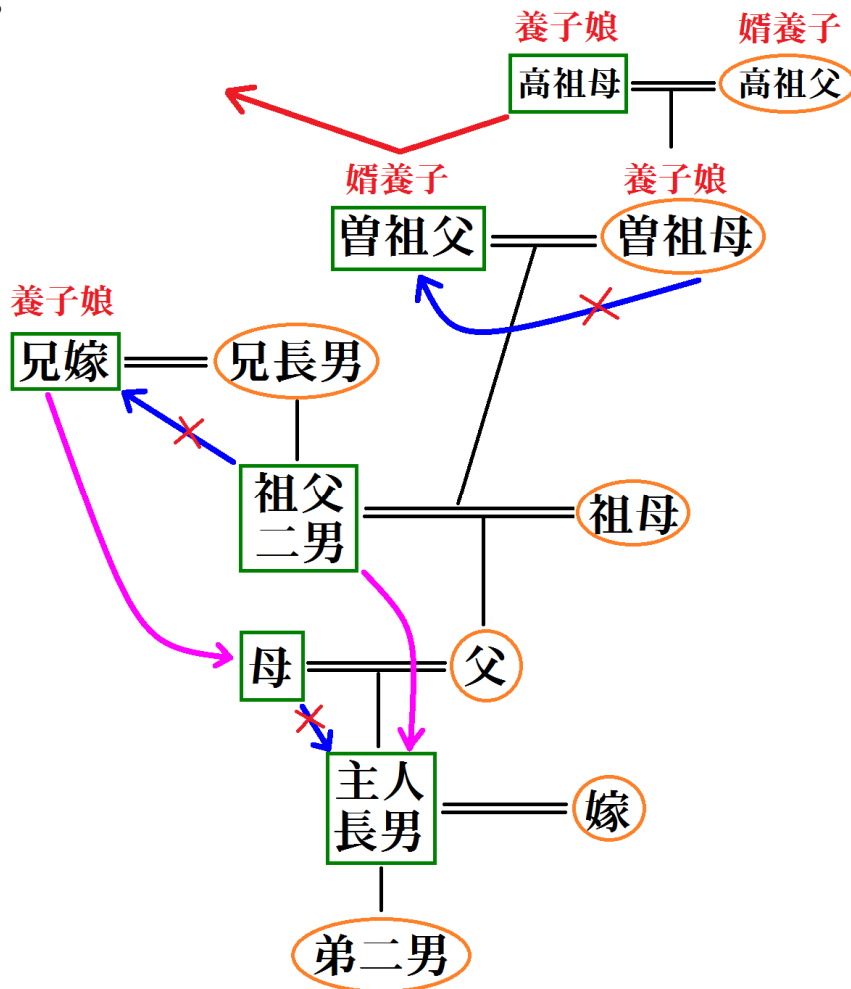
ご主人と父は共に長男だが、祖父二男が跡を継いでいるのは、兄夫婦は一度継いだが、親から勘当され出されたので、親孝行者の祖父二男が継いだと聞いている。

ご主人が家を出たいきさつは、母親と折り合いが悪く高校を卒業と同時に家を出たまま帰らない。

母親は息子二男に跡を継がせたいと言っていたことで、すべて納得できた。

長男は母親と同じ魂であり、母親は長男嫁だから跡を継い

だ祖父二男と同じ魂になるが、勘当され家を出された兄長男
嫁の魂の里帰りになるが、だが老人が悪霊化した意味が分か
らない。



電話で実家の祖父二男に家系を聞いてみたところ、曾祖父
は婿養子に入り、曾祖母の母親である高祖母から馬同然の扱
いを受けて、泣きながら亡くなったことと、兄長男は世間知
らずの一人娘と結婚したので、兄夫婦は勘当されたと教えて
くれて、ようやく納得できた。

- ・ 祖父二男の兄嫁は養子娘である高祖母の魂の里帰り。
- ・ 兄長男は婿養子に入った高祖父の魂の里帰り。
- ・ 曾祖母は息子長男嫁を嫌ったから、同じ魂の息子二男（祖父二男）を優しく引き寄せて跡を継がせた。
- ・ 母を高祖母に置き換えて、息子長男を曾祖父に置き換えてみると意味が分かってくる。
- ・ 悪霊と化した老人は、亡くなっても居場所を失ったので、曾孫息子に、「このまま第二男が跡を継がせれば、家系が絶えてしまうから、早く気づいて欲しい」と訴えかけているだけ。

この意味が分かった主人長男は、実家に行って命の絆の法則を話したところ、父はすんなり理解してくれたので、まず仏壇を閉めて、家族にいっさい拝むことをさせないと誓ってくれた。

それから霊現象のようなことが起きなくなったので、父は曾祖父夫婦やその上の先祖を納めることを約束してくれた。

No.16、就職しないのは親の心次第。

息子長男が高校を中退し就職もせず、親に反発しブラブラしているのは、親自身に原因があると分かった。

父三男と母五女は、父三男の実家の近くに住み、親孝行をしていることが罪だと分かり、父三男は実家には行かず、家を出た兄夫婦と行き来し始めてから、反発していた息子長男は仕事を探し明るい家庭になった。

気づく前までは兄夫婦が親孝行をしないからだと思っていたが、親が長男夫婦より親孝行をしてくれる子供を、親孝行者と思っていることが原因で、兄夫婦の存在がなくなったと分かったからである。

祖父も三男夫婦で、やはり近くに住み親に孝行して、「親が生きている最中は親孝行！ 親が亡くなってからは墓参り！」と思って子供たちを育て、子供たちも親の言うことを素直に信じ、親と同じ人生を繰り返し、兄夫婦と一緒に住むことが出来ないと分かった。

母五女の実家を継いでいるのは長男ではなく、二男夫婦が継いでいるので、両家の負担を長男が背負い、高校を中退し反発し続け就職もしなかった。

このまま気づかずに親に孝行をしていれば、結婚の縁や孫の縁が無いだけでなく、引き籠もりになったかも知れない。

中退や就職もせず反発しているのは、親自身に気づくように訴えかけていたのだが、親自身は息子に苦勞をかけられて

いると思って説教をしていた。

親が子供を説教すれば親自身が悟ることをやめてしまう。

親は子供によって悟りを開くように生命と魂を神から授かっているのだから、子供は神の子であり、我が子は我が先祖なり、我が先祖は我が子なり、我が子は神の子として、子々孫々していくのである。

No.17、非行は母に気づいて欲しいため。

離婚した母長女は実家の近くに住み、母親に息子たち二人を預けてパートに出かけていた。

しかし母親は病気がちで働けないので、母長女一人ではパートの仕事の収入は少なく家計が苦しい。

息子たちは勉強もせず非行グループに入り、親の心子知らずなのか夜中に帰ってくる。

母親に息子たちを預けていたことが間違っていたと気づき、母長女のアパートの鍵を母親から返してもらい、母親の家の鍵をお互いが返し合い、離婚した弟嫁に心から詫び、母親との縁を少しずつ他人行儀にした直後に、高収入の仕事に変わることができ、息子たちが非行グループから離れ立ち直ることが出来た。

親を断ち切る子供もある。

これが親切であり親を切ると書き、親が断ち切らなければいけない子供もいる。

親切とは親が切ると書くが、大部分の親や子供たちは、親に孝行を道徳で教えられて育っているが、昔の教えや道徳は親孝行とは親が子供を慈しみ育てることであった。

だが大日本帝国を造るに当たり、江戸時代の教えを悪としなければ明治政府が成り立たなくなるので、親に忠義を示す子供が親孝行者として扱われてしまい、百年足らずの間でいまの社会が出来上がってしまった。

その方が親としては楽であり、いまさら元に戻すより、このままの方が好都合だから、「触らぬ神に祟りなし」となって、臆病な人生を送ってしまうのである。

年老いたから病気になるのではなく、若いときの心の在り方が病を引き寄せてしまい、その結果が不幸という体験となって、子供や孫までも道ずれにしているのが現状である。

親に受けた恩を長男夫婦に返すことが誠の恩返しである。

No.18、何度もお見合いをするが…。

〔長女は父親の魂を受け継ぎ、母親と同じ人生を歩く〕と

いうパターンが多いことを悟った娘さんは溜め息をついた。

結婚の縁がないのは、父親を憎んでいることが原因だと分かったからである。

何度お見合いしても何度も好きな人が出来ても、すべて振られてしまう意味は分かるが納得できない。

納得しても実行が出来ないというように、父親を好きになることが出来ないと言う。

なぜなら母親を苦しめても平気な顔をして遊び回っているからである。

では、あなたに男の子が誕生し、その男の子が結婚したとしよう。

男の子はあなたの父親の魂と生命を受け継ぎ誕生し、その男の子の嫁は、あなたの母親の魂を何処かで預け育てられて里帰りしてくるから、祖父母の人生を息子夫婦が背負って誕生と里帰りする。

そのときに息子はかわいいが嫁は憎いと思えば、いま現在、母親が苦勞したと思っても、息子の嫁も同じように苦勞したと思えるかと尋ねたところ、「多分反対に嫁が悪いから息子が遊び回るだろうと思います」とのこと。

人は身内と他人に区別でなく差別で物事を判断しているか

ら、偏見した考え方になってしまう。

実際には母親が苦勞をするように育てられたからである。

娘さんは、「母親も長女で父は母親側の祖父そっくりで、妾をつくり遊び回っていました」

同じ事を繰り返さないためには、父親に対しての思いを変えなさい。

それから何度も見えたが、始めに来られたときと違い明るくなり、結婚することが出来ました。

後書き

この例文は一部分だけですが、少しは気づいてもらえたと思いますので、まず出来ることからチャレンジしてみてください。

信じて、理解して、納得だけで実行までいかななくてもかまいませんので、頭の片隅に記憶だけでも入れてもらい、自分自身に対して「あなたの命に出会えてありがとう」と何度も訴えかけてみるだけでもいいと思います。

ありがとうと言える自分にありがとう。